

欧州の戦略的優位性としてのオープンソース

42%の組織は依存しているOSSプロジェクトに積極的に貢献していますが、30%はOSSを使用してはいるものの貢献していません。



34%の欧州組織が正式なOSS戦略を維持しており、わずか22%がOSP0を設立しています。一方、世界全体のサンプルではそれぞれ37%と28%です。



28%の組織は、依存しているプロジェクトにフルタイムのOSS貢献者を雇用しており、そのうちの81%は、そのような投資に高い価値を見出しています。



経営幹部レベルにおけるOSSの戦略的価値は、今だ十分に明確ではなく、その価値を認識している経営幹部（62%）は他の従業員（86%）よりも少ないです。



イノベーション、標準、相互運用性は、欧州の産業にオープンソースがもたらす主なメリットとして認識されています。



69%の回答者は、OSSへの取り組みは、自社の競争力が高まると考えています。



オープンソースは、デジタル主権にとって極めて重要であり、欧州のテクノロジースタックに対する制御と権限を強化します。



EUのCRAおよびAI法から得られた教訓は、OSSコミュニティがオープンソースに影響を与える政策課題に積極的に取り組む必要があるということです。



62%の回答者がサイバーレジリエンス法に関する知識が低いと報告しており、規制に関する認識と準備に大きなギャップがあることが浮き彫りになっています。



ガイダンスや認定は、CRAやAI法などの新しい規制に備える方法について開発者やビジネスリーダーを教育する上で重要です。



専門家は、ドイツの機関をモデルに、重要なOSSの維持に資金を提供するEUレベルのSovereign Tech Agencyの設立を求めています。



38%の回答者は、ヨーロッパの活気あるオープンソースAIエコシステムをサポートおよび拡大するために、AIおよび機械学習向けOSSへの投資を優先しています。

